



【所在地】〒987-0311 登米市米山町字桜岡貝待井581番地2「平筒沼ふれあい公園」【問い合わせ】米山総合支所地域生活課 ☎ 0220 (55) 2111

## 平筒沼「弁天島」 (米山)

米山と豊里町域にまたがっている平筒沼の東端に、「弁天島（金華山金密寺）」という小島があり、今日まで不思議な言い伝えが残っています。遠い昔、この島に一人の僧が住むようになり、島に自生しているシキミの葉を摘み取って一葉に一字ずつお経を書き、それを本尊としていたそうです。僧は、常に一匹の赤蛇を離さず可愛がっていましたが、ある嵐の夜、突然死んでしまいました。お通夜が開かれたとき、僧と縁の者と名乗る婦人が訪ねてきました。焼香を済ませると、見る間に一陣の風が灯を消し、婦人はたちまち赤色の大蛇に姿を変え、僧を口にくわえて荒れ狂う沼に身を投じたそうです。

やがて、悪夢のような恐怖の一夜も治まり、日が昇りかけたころ、沼の中央から一条の竜巻が舞い上がり、その中に赤白二匹の竜がハスの花飾りの付いた灯籠を捧げて昇天していく姿が見えました。その後、平筒沼はいかなる晴天が続いた年でも、沼の水がかわれることはないと言えられています。

第25回特別企画展

# 「これでいいのだ！」 赤塚不二夫展

トキワ荘の青春から「天才バカボン」「もーれつア太郎」40周年へ  
石ノ森章太郎ふるさと記念館

伝説のアパート「トキワ荘」で親友の石ノ森章太郎と青春時代を共に過ごし、ギャグ漫画の帝王と称された漫画界の奇才「赤塚不二夫」の企画展が始まります。40周年を迎えた「天才バカボン」「もーれつア太郎」のコーナーなど必見です。ぜひご来館ください。

【期 間】 H19/10月13日(土) ~ H20/1月14日(月)

【時 間】

9時30分～17時(入館は16時まで)  
※休館日は毎週月曜日(月曜日が休日の場合は翌日)・12月29日～1月1日

【入館料】

大人700円/中高生500円/  
小学生200円  
※20人以上団体割引。小学生未満、身体障害者とその介護者1人までは無料

【問い合わせ】

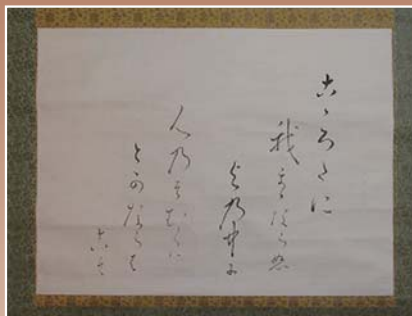
石ノ森章太郎ふるさと記念館  
☎・FAX 0220(35)1099



歴史博物館

## 広報ミニ展示室 18

=伊達慶邦(こころだに)=



この書は明治維新を生き抜いた藩主たちの心中を伝える一句です

「こころだに 我まならぬ 世の中に  
人のそむくは とがならんこそ」。

この書は伊達慶邦の書で、「明治維新で賊軍の汚名をもらった自分であるが、決して皇室に対して背く不忠の心ではなく、徳川家への恩義友誼を通したまでのこと。わたしに背いたものも少なくなかったが、波乱の世の中であって、自分の思うままにならぬものが多いのが当然で、罪人として裁かれたる者は不運というよりほかない」と、激動の当時の世を歌い上げています。